

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人 日本語教育研究所

1 事業の趣旨・目的 生活日本語レベルの外国人を日本語で仕事ができるレベルにするには、何が必要なのか。生活日本語指導との違い、日本の企業文化なども含めて、日本語を使って働きたい外国人をサポートできる指導者を養成する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月2日	浅松ビル1階 会議室	上野田鶴子 (議長) 春原憲一郎 柳澤好昭 林さと子 田中久光 八若壽美子 齋藤伸子 徳島陽子 武田聡子 西上鈴江 (記録)	受講者募集方法、受講者資格、講座の順番について検討。 概算払い、出講表、講師依頼状、報告書作成について確認。	受講者資格:原則として全講座に出席できる人、日本語教育未経験者優先。 募集方法:日本語教育研究所メールマガジンにて募集。
12月13日	浅松ビル1階 会議室	上野田鶴子 (議長) 春原憲一郎 柳澤好昭 田中久光 八若壽美子 武田聡子 長崎清美	10月24日欠席者の扱いについて検討。 文化庁提出報告書について確認。	10月24日は日本語教育能力検定試験実施日であり、この講座の趣旨とも合う試験であるため、欠席扱いにはしないこととする。欠席者にはその日の実習のDVDを見るよう勧める。

		西 上 鈴 江 (記録)		文化庁提出報告書については特に問題なし。それとは別に、今後のため詳しい記録を作成する。
--	--	-----------------	--	---

【写真】



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 「日本語で働く外国人のためのサポーター養成講座(日曜コース)」
- (2) 養成講座の目標
- (3) 受講者の総数 10 人(延べ人数ではなく, 受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 日本 10 人)
- (4) 開催時間数(回数) 40 時間 (19 回)
- (5) 参加対象者の要件 原則として全講座出席できる人、日本語教育未経験者および経験年数が短い人
- (6) 受講者の募集方法 日本語教育研究所メールマガジンでの募集
- (7) 研修会場 浅松ビル 1 階会議室
- (8) 使用した教材・リソース 講師作成の資料
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8 月 8 日 14:00～16:00	グローバル化と日本語教育	法政大学教授 山田 泉	10 名

8月22日 14:00～16:00	日本語と国語の違い	明海大学教授 柳澤 好昭	8名
8月29日 14:00～16:00	企業の求める日本語 研修	AZ Japanese Service 代 表 倉持 素子	10名
9月5日 14:00～16:00	今、日本語教師に求 められるもの	株式会社 凡人社 社長 田中 久光	9名
9月12日 14:00～16:00	日本語教育から見た サポーターの役割	茨城大学留学生センター 教授 八若壽美子	9名
9月19日 14:00～16:00	ビジネスマナーの教 え方	株式会社メディカルスタ ーズ講師 山下 直美	9名
9月26日 14:00～16:00	地球規模でのひとの 移動とビジネス日本 語	(財) 海外技術者研修協 会 AOTS 日本語教育セン ター長、日本語教育学会 理事 春原 憲一郎	10名
10月3日 14:00～16:00	仕事に生かせる日本 語指導の実際	フリー日本語教師 小山 暁子	10名
10月10日 14:00～16:00	ビジネス日本語の伸 ばし方①	心弦社 代表 田中 則明	9名
10月17日 14:00～16:00	ビジネス日本語の伸 ばし方②	心弦社 代表 田中 則明	10名
10月24日 13:00～16:00	仕事に生かせる日本 語指導の実際(実 習)	日本語教育研究所 理 事 武田 聡子	5名
10月31日 13:00～16:00	仕事に生かせる日本 語指導の実際(実 習)	フリー日本語教師 小山 暁子	10名

11月7日 14:00～16:00	中上級レベルの日本語指導について	創作集団にほんご代表 浅野 陽子	10名
11月14日 14:00～16:00	事例紹介「EU ビジネスマン日本研修プログラム」	日本語教育研究所 理事 徳島 陽子	10名
11月21日 14:00～16:00	会社内異文化摩擦を乗り越えるには	早稲田大学 紛争交渉 研究所客員研究員 鈴木 有香	9名
11月28日 14:00～16:00	コーチが使う「よりよい関係を築くためのアプローチとスキル」	米国 NLP 協会認定 NLP マスタープラクティショナー・生涯学習開発財団認定コーチ 藤生 あゆみ	9名
12月5日 14:00～16:00	学習者一人ひとりの生活と日本語学習	津田塾大学教授 林 さと子	10名
12月12日 14:00～16:00	サポーターとしての自律	桜美林大学准教授 齋藤 伸子	10名
12月19日 14:00～16:00	日本語で働く外国人のサポーターとしての役割	元東京女子大学教授/日本語教育研究所 理事長 上野 田鶴子	9名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート **別紙参照**

② 実施主体からの研修内容結果評価

日本語を使って働きたい外国人をサポートするという、目標のはっきりした講座であったため、講座終了後には多くの受講者より「サポーターとして何が必要なのかが分かったという」「この研修で学んだことをサポーターとしての活動に生かしていきたい」というフィードバックがあり、研修の目的は達せられたといえるだろう。

毎回、さまざまな分野からの講師による、理論・実践面での講義が繰り広げられ、いわゆる養成講座とは違い、現場の声が聞こえてくる講座となったのがこうした評価につながったようだ。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

生活日本語レベルの外国人を日本語で仕事ができるレベルにするための日本語レッスン、また、こうした指導者を育成するための講座を継続的に続けていく予定である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・現在、本研究所で実施中の企業研修等に、卒業生を積極的に取り込む。
- ・本研修で好評を得た講座については、さらに発展した講座を計画する。

② 研修後の人材活用

現在、本研究所で実施中の企業研修等に、本講座の修了生を積極的に取り込んでいく予定である。

(12) 今後の課題

講座修了生の能力をどう生かしていくか、また今後も修了生をどうフォローしていくか、十分に検討していきたい。

『日本語で働く外国人のためのサポーター養成講座』
コース全体について

日 時：12月19日（日）14：00～16：00
場 所：浅松ビル1階会議室
講 師：上野 田鶴子氏
主 催：NPO 法人 日本語教育研究所
アテンド：長崎

<結果>

1. イベント参加者数

定員：10人 参加者数：9人

2. アンケート回答率……………約 100% (9/9)

有効回答数 (男性：3人，女性：6人，不明：0人)

3. アンケート結果

(1) 今回の講座はいかがでしたか。

大変よかった	…………… 7名
よかった	…………… 2名
どちらともいえない……………	0名
あまりよくなかった……………	0名
よくなかった	…………… 0名
無回答	…………… 0名

特にどのような点が「よかった」・「よくなかった」のか具体的にお書きください。

- 具体例がとて多く、試験勉強の机上のものが体験できた。
- 理論と実践と両方学べたこと。いろいろなバックグラウンドを持つ人と出会えたこと。
- サポーターとして何が必要なのかわかったし、1つ1つの授業がとても面白かった。
- 様々な視点からのレベルの高い講座だった。
- 自分が聞きたかったこと、自分が期待していなかったこと含めて本当にいろんな広いことを学びました！
- 多くの気づきがあった。
- 外国の方の実態、実情が把握できた。

(2) 期待していたことが得られましたか。

大いに得られた		7名
得られた		2名
あまり得られなかった		0名
得られなかった		0名
無回答		0名

*「得られた」「あまり得られなかった」両方にチェックした人が1名あり。

***期待していて、得られなかった情報・内容があれば、具体的にお書きください。**

(得られた情報の記述もあります)

- コーチング&ビジネスとしての日本語を一番学びたかったですが、エッセンスを学びそしてあとは実践していただけたと思います。
-

(3) 出席して、気づきや学びはありましたか。

大いにあった		9名
あった		0名
あまり得られなかった		0名
得られなかった		0名
無回答		0名

具体的にあればお書きください。

- たくさんあって具体的に書けませんが・・・たくさんありました。
- 学習者との向き合い方、専制化が他の私たちへの向き合い方が参考になりました。
- 学習者が自立的に日本語を学ぶことの目的、方法などを気づくよう、navigateし、その背中を押すような方策を考えること。
- 日本語教育というものを通して、世界や日本の状況を知り、これからどうしていきたいかが明確になった。
- 相手のニーズを知る必要があることや姿勢など。

(4) これから活かしたい、やってみたいと思うことがありましたか。

大いにあった		8名
あった		1名
あまりなかった		0名

なかった 0名
無回答 0名

具体的にあればお書きください。

- 学習者のおかれている立場やニーズをできるだけ深く把握して学習者が自立的にかかわれるような活動を生み出していきたい。
- ニーズ調査。
- コンフリクトを恐れない。相手を理解する心を持ち続ける。
- 学習者が興味と情熱を持って日本語を学ぶ方策→学習者の自覚を促すこと。
- ニーズをさぐり、相手を理解する。自分もビジネス感覚を身につける。
- 教えられたテクニックなどを参考に、人とのかかわりを大事にして感情に流されないようにする。

(5) その他、ご意見、ご感想がありましたらご自由にお書きください。

- 今回このコースを受講して、毎回新たな発見があり、とても大きな経験になりました。
- 第一線の様々な先生方に直接教えていただけて、とてもうれしかったです。アンケートを書く時間が短かったので持ち帰りもOKにしていただけるといいなと思います。
- ユニークな先生の多かったことで、また日本語への興味が深まった。自分の日本語の柱とするものが決まった。今後のサポーターとして勉強することのポイントが明確になった。
- 1つ1つのテーマを振り返り、実際にもっと詳しく学びたいと思った。日本人がふつうにサポーターの感覚を持つには日本人に対する日本語教育の必要性があると思っています。